

# 三方五湖自然再生協議会

## 「環境に優しい農法部会」



三方五湖自然再生協議会は、三方五湖とその周辺地域の自然環境を守ることを目的として設立されました。協議会に作られた6つの部会の1つである「環境に優しい農法部会」は、三方五湖がある美浜町と若狭町の“農地”を対象として、農薬や化学肥料の使用量を控えたり、生きものや自然環境に配慮した活動を普及することを目指して活動しています。

部会員の多くは地元で農業をしており、自分の田んぼで農薬や化学肥料の使用量を減らした米づくりや、生きものや自然環境の保全活動に取り組んでいます。今、特に力を入れているのは、田んぼの濁水流出防止対策と、「環境に優しい農法認証制度」の普及活動です！

続いて、2023年度に  
「環境に優しい農法認証制度」  
で認証された生産者をご紹介します。  
いたします。



# 尾崎ファーム農賊団

ポン菓子に使用しているお米は、福井県特別栽培米認証区分①のコシヒカリで、「三方五湖自然再生協議会 環境に優しい農法部会」の認証を受けています。お米を作っている農地は山に囲まれた中山間地なので水も冷たくて生き物も豊富です。トンボ、カエル、タニシ、ツバメ、サギなど田んぼの生き物が多く観察できとてものにぎやかな田んぼです。

そのこだわりのお米で、甘味には体に優しいてんさい糖を使用して、こだわりのポン菓子を作っています。



のう がく しゃ

# かみちが農楽舎

肥料、農薬、耕し方、苗の作り方…米という文字の通りの八十八の工程。

お米作りの始まりは冬からです。暦通りの雪が降り春には雪解け水が田んぼを満たしてくれます。春、肥料に向き合い、国産家畜の糞や国内で供給出来る資材を組み合わせた有機肥料を使っています。苗作りでは、ミネラル成分を入れました。初期成育も良く健康な苗に育ちました。

夏、梅雨も暦通りに明け、待ちに待った光合成が活発になりぐんぐん育ちます。斑点米を防ぐための殺虫剤の散布は止めました。代わりに、害虫の生息場所の草刈りと斑点米の選別強化に努めています。

最後は秋です。立秋から気温は徐々に下がり秋らしくなっていました。実りの時期の昼夜の寒暖差がお米を美味しく仕上げます。

毎年ですが、人が出来ることはわずかばかりで、お天道様の恵みで出来たお米ですが精一杯、手をかけて育てました。



# (農)若狭下吉田営農組合

若狭下吉田営農組合の冬水田んぼは、浅耕土地域で下層は砂利層の乾田であります。用水は自然圧のパイプラインで冬期も十分に補給できます。秋の刈り取り後に「荒起しーかん水ー中こなしー用水補給」の作業体系です。

冬水田んぼは、「三方五湖」が平成17年にラムサール条約登録湿地となり、その目的である生態系の保全をさらに推し進める農法であると思っています。

畦の侵食など多少の課題はありますが、良質米の生産と生態系の保全の視点から、今後とも冬水田んぼの拡大と充実を目指して取り組んでおります。



いままでの自然の  
 田んぼの中心  
 ちとまきはあつた  
 田んぼのまき  
 自然といっしょに  
 人も、ま米を  
 育っています。

若狭の空はまき  
 よしむら農園の  
 ま米。

福井県若狭可

# よしむら農園



# kokoroふ あーむ縁

当園の田んぼでは肥料・農薬・除草剤を一切使わず、本来の多様な生命環境・土壌が育まれる自然栽培を採用しております。

微生物からつながる生命のゆりかごとになった土壌では様々な植物の芽吹きと多くの生き物に出会うことができます。

「名水・霊水」の水の都、福井若狭の風土の中で育まれた雑味のないほんのり優しいお米です。



空見れば トンボ飛び交い

田を見れば フナ コイ 遊ぶ

わが家の田んぼ

# 石地家の田んぼ

若狭町気山で、山からの水と、お日さんと雨水の力を借りて、無農薬、無肥料、不耕起(一部)の自然農法でコメ作りをしています。

安全安心な食べ物に憧れ、生き物に優しい農法に挑戦しています。

稲を育てている間は田んぼから水を抜かずにオタマジャクシに優しくしています。フナ、コイの稚魚を田んぼに入れて、3~10cmの大きさまでに育てて、湖に返しています。

稲と生き物が共生し、自然農法で持続可能なコメ作りがまがりなりにもできています。味は？ 食べてからの楽しみみです。



# 三方小学校



今年もゆりかご田で、無農薬のお米作りとコイやフナの子供たちを育てる活動に取り組みました。お米作りを教えていただいた松村光洋さん、コイやフナが卵を産み付けたシュロを提供し

ていただいた鳥浜漁協の皆さん、里山里海湖研究所の石井先生など、多くの方々に支えられて今年も活動ができました。猛暑のため、例年よりも魚の数やお米の収穫量が少なくなりましたが、貴重な経験をすることができました。

# 瓜生小学校



本校では毎年5年生が、学校のすぐ近くの田んぼで稲作体験活動を行っています。

かみなか農楽舎の方を講師に招き、無肥料無農薬の農法について深く学習しています。この農法は雑草対策が大変ですが、農学舎の方から

除草機を使って効率よく草を生えさせない方法を学びました。「上農は草を見ずして草をとる」という言葉があるようで、草が生える前に土の中の微生物を活発に働かせて草を生えさせないことが大切です。除草作業後は、濁り水が外に出ないように気を付けました。

今年も「環境に優しい農法」認証を受けたお米を地域の方々に食べていただけるのが楽しみです。